石川モンゴル親善協会だより

令和元年の活動報告

第16号

会長からの挨拶

会長 福田繁機

新型コロナウイルス感染症への対応が長期化しています。中国武漢市から発生した新型コロナウイルスは、今や地球全体へと感染拡大し猛威を奮っています。わが国でも緊急事態宣言を延長し、国を挙げて感染拡大防止に取り組んでいますが、終息への確かな道筋には至っていません。そして感染者対策の最前線におられる医療関係者や介護福祉関係者などの方々の負担が日増しに増大していることが連日報道されてます。命と健康を守るために日夜、献身的に従事されている皆様に深く敬意と感謝を表したいと思います。

私たちも感染拡大防止のために「３密」の回避や人との接触８割減を目指すことなどに一層努めなければなりません。長引く対策で日々の生活面にも大きなダメージが出始めています。できる限り早急に新型コロナウイルスを抑え込み、普段の生活に戻って欲しいと願うばかりです。

このような状況下では一堂に会する会議は不適切であり、そのため石川モンゴル親善協会の本年度総会はインターネットを利用したオンライン会議で行うこととしました。多くの会員の方々のご参加を期待します。また初めてのことで不手際もあることとは思いますがご理解とご協力をお願いします。なお、このシステムの準備や運営に当協会員の合田純也氏にご尽力いただきました。

私たち石川モンゴル親善協会は、２００８年に結成以来１０年を超える活動を地道に積み上げてきています。また昨年３月には、石川県知事から、私たちの活動に対して顕著な国際交流活動であるとして表彰を受けました。この受賞を誇りに、一層活発な活動を模索していければと思います。

本年度は大変難しい年になりますが、皆さんと共通理解を深め楽しみながら活動していければと願っております。

理事長からの挨拶

理事長 藤木正範

「協会の運営について」
私たち石川モンゴル親善協会の特徴

その長所と短所について。人から言われることもあるし、自分でここしばらく思い続けていることもある。先ず長所と言われることは、皆、手弁当で自ら手、足を使って会の運営やイベント事業、留学生の皆さんの支援をやっている。モンゴルに対する憧れや、心からこの国の自然や人が好きだ、仲良くしたいというところから身体が動いて会の活動となっている。

一緒に皆で参加して、国際交流まつりや海水浴、動物園や水族館行など、自分もみずから手足を使ってやってみたいなと思わせるところがある。これは今後もなければならない第一の長所である。全く普通の市民だけ、市民中心というのも全国では珍しいのだ。他では企業の活動や生協、政治家の運動、行政の思惑に乗って等とカラーがはっきりしている。

短所というのは、ことあるごとに言われていることだが、活動の連絡をはじめとして業務を遂行する能力不足、スピードが遅いということである。これは又長所の裏表でもある。又より広く会の活動を世間にＰＲすることが望まれている。このことがうまく処理出来ていない。第一の短所であろう。
もうひとつ協会の特徴で誇りたいものがある。会の出自、１２年前のできた経緯である。学術団体が主催して招聘された大使が講演し、その場でこれから友好のための交流の会を作ろうという呼びかけがあり、多くの賛同者が手をあげた。このことはとても良い出発点だったと思う。

短所は、特に会員間の連絡、協会のＰＲはインターネットの活用によって、またこの事によって新しい問題は派生しているがＩＴ化によって克服したい。フェイスブックによるホームページやラインによる連絡網は効果を上げつつある。

総会も今年度はインターネットによる総会となった。会員を増加させる工夫も今後は必要である。また協会の進む方向を明確にするためにもモンゴルに係ることは何でも取り上げて研究会活動をより活発にしたい。今度顧問に迎える窪田新一先生は日本モンゴル協会の理事長でもある。私たちの会を活性化させるきっかけとしたい。ＩＴに不慣れな会員の為には、会合に気軽に参加できるようサロン化、定例化し、できれば常設の場所を持ちたい。

今後技能実習生も急増すると予想される中で協会の役割リはより広く重くなるだろう。新しい時代を迎えてモンゴルから来られる人々との出会いを楽しみにして会の活動に参加している。

総会
／
懇親会
6月

令和元年　総会

文 / 渡辺勝美

令和元年の総会は6月1日（土）午後5時より、恒例のANAホリディイン金沢スカイにて開催され、藤木理事長の挨拶の後、福田理事が議長となり、平成30年度事業報告、会計報告、監査報告、及び令和元年の事業計画、収支計画が報告され、又新年度の役員候補（福田会長 他）が承認されました。

この日は金沢百万石祭り当日であったにも拘わらず総会には16名の会員及び数人のモンゴル人学生もオブザーバーとして出席しました。

その後の懇親会では最初に藤本流藤与会による端唄のご披露があり、16名の会員の他24名のモンゴル人（小松、加賀地区の実習生7名を含む）合計40名が集まり、盛況の内に終了しました。参加していただいた皆様ありがとうございました。

夏の
バーベキューと
海水浴
7月

バーベキューと海水浴

文 / 福田繁機

モンゴルの方々との一層の交流を深めるため、バーベキュー大会を7月27日、かほく市の「うみっこランド七塚」で開催しました。毎回人気があり、今回は日本人13名とモンゴル人28名の合計41名もの多くの参加がありました。

両国の方々が混ざって四つの炉に分かれ肉や野菜など次々に焼き、腹いっぱい食べました。これらの食材は、今回も会員の道上さんの手配で準備していただきました。お互いの国の生活の違いなど、色々のことを話題にしながら楽しく親睦を深めることができました。

バーベキューを満喫した後、近くの白尾海岸で、皆で海水浴しました。母国にはない海辺に、モンゴル人の大人も子供も一緒になってはしゃぎ回っているのが印象的でした。会員の内潟さんに差し入れていただいたスイカもおいしくいただきました。何とか天候にも恵まれ楽しい1日でした。

モンゴル訪問

10月

モンゴル体験ツアー

文 / 渡辺勝美・由美子

チンギス・ハーン空港には誰が来てくれるかな？と思いながら到着ラウンジへ。そこには２０年前に色々親しくしていたボルさん始め、８年前のナツガさん夫婦そして昨年帰国したばかりのアーリック、ニーマさん夫婦の懐かしい顔だった。

今回の訪問では勿論第９２番学校に恒例の書籍贈呈、及びボルさんの学校訪問等でした。到着翌日には懐かしいドーヤさんの迎え（ご主人と一緒）で日本人墓地参拝から始め、再度記帳し、先人のご苦労を偲んだ。

ボルさんが校長を務めるエルヘム バヤン エルデム学校では理事長にご挨拶。理事長は日本からの小、中学生の受け入れとモンゴル郊外でのゲル体験をさせたいとの意向でした。

２校目の訪問は元横綱 日馬富士が経営している「新モンゴル日馬富士学校」。そこでは校長先生が全校を隈なく案内してくれました。日本の教育を全面的に採用し、制服着用、クラブ活動等が印象的だった。学校入り口の吹き抜けホールには巨大な日馬富士の写真が圧巻でした。又アーリックの長男バイラ君のバスケット部を突然訪問し驚かせました。

一週間の滞在中にアーリック（昨年１０月に市内有名病院の院長に昇格）家、ナツガ家、ドーヤ夫婦の家庭訪問等、彼らが帰国後しっかりと生活していることにも感動（親代わりと自任している我々にとって安心した）

最後に第９２番学校にて日本語クラスに参加。金沢市国際交流財団からお借りしたDVDで金沢を紹介。更に書籍の贈呈後、本年金沢もりの里小学校、田上小学校へ研修希望の２人の女性教師に面会。その後オクチャブリ校長先生のご自宅訪問（懐かしい家でした）。奥様にも久しぶりにお会いし、今回も忙しくも楽しい国際親善の旅でした。

日本文化紹介

11月

着物体験

文 / 刈本良子

11月16日、金沢市寺町の高橋喜恵子さん宅で今年夏に帰国予定のボルド、ドギーさんご一家６人が着物体験をされました。沢山の着物の中から、それぞれに似合うものを選ぶのも楽しいひと時でした。
着付けは私の友達が駆けつけてくれ、手際よくやってくれました。中島さん、宮野さん、矢嵜さん、有難うございました。

ボルドさんは恰幅のいい若旦那風に、ドギーさんは可愛い若奥様に、ドギーさんのお母さんは着物をよく着こなされていて、どこから見ても日本人の様に着こなされていました。ドギーさんの妹さんとイルムーンちゃんは赤い着物がよく似合って、二人で鎧の前によくいましたよね。ニコッと笑って可愛かったよ。
着物体験行事は今後も続けて行きたいと思います。協会員の中で着付けのできる方はお手伝いをお願いします。

忘年会

12月

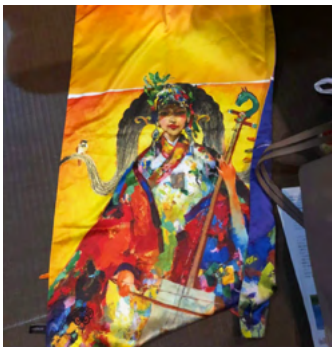
和気あいあい 楽しい忘年会

文 / 中谷アンギルマ

今年は片町にある四川料理昇龍にて忘年会が開催されました。日本人16名、モンゴル人12名で和気あいあいとした年末の一時を過ごしました。

モンゴルからチンギスハンというウオッカの差し入れがありました。このお酒はアルコール度数40度もあり、この強いアルヒ（酒）が助力となり、会は大いに盛り上がりました。

例年通りプレゼント交換もあり、大変楽しい忘年会になりました。



モンゴル
料理教室
2月

両国合同料理教室　赤飯作ったよ

文 / 刈本良子

2月15日モンゴル協会恒例の料理教室がアリス学園調理室で実施されました。参加者はモンゴル人は子供を含めて16人、日本人は10人の合計26人です。

両国混成のチームが作られ、とても和やかな内に日本料理から始まりました。講師は今井喜久子先生、アシスタントは秋元麻貴さんです。メニューは日本の祝事には欠かせない「赤飯」。本格的に蒸し器を使って作りました。彩のいい「茶碗蒸し」「白和え」の３品を作りました。

今井先生はユーモアたっぷりで情熱的、「ワー」と来る質問にも笑顔で教えて下さり、先生の周りはいつも笑い声がしていました。モンゴル料理の指導はドギー先生です。「ビーン」を教えて頂きました。

薄いおせんべいのような、とても美味しく、いくつも食べました。まだまだモンゴル料理を教えて頂きたいです。

調理室はとても綺麗に整備されていて使いやすく、道上さんにもお世話になり有難うございました。

7月

番外編

モンゴル国の祭典 ナーダムの再現

文 / 藤木正範

以前ドントゴビのウルジット村でナーダム（祭り）の競馬を見た。離れて見ると点にしか見えない見渡す限りの緑の草原を、少年少女と騎手の馬の群れが疾走する。

並走する4駆にのせてもらって観戦した。「オーハ」掛け声がとぶ。小さな小学5年の女の子が優勝。後半1馬身のリードを保ちながら大きな馬で追い上げる男の子の追撃をかわす技、抜かれそうになるが抜かれない、競馬の知識がない僕にもとても素晴らしく感じて今も目に浮かぶ。

下菊橋の橋の下の川原の芝生の上で繰り広げた数十組の若い男たちの乱闘は、多くの日本人に見せたかった。男という男は皆、とても相撲に向くまいというようなからだつきの者も果敢に組み合っていく。溢れる生命の力にただ呆然と見とれていた。優勝者は Baasanchuluun さんでした。このナーダムの主催者は誰かと尋ねたが Boldbaatar さんは「we are equaly contributed」という。

青空に山々が見え犀川は流れその岸辺の広い草地でしばしモンゴル服の人達は故郷を偲ぶ。久しぶりにホルホグ（鍋に石と羊肉の塊をいれて煮る）をごちそうになった。

Naadam festival in Kanazawa

文 / ボルドバータル ジャムバドルジ

Mongolian students at Kanazawa University were organized the mini “Naadam” festival first time in Kanazawa city on 14th July 2019.

The “Naadam” is the traditional festival in Mongolia, celebrates in the middle of July.

The festival is also locally termed "Eriin gurvan naadam" (эрийн гурван наадам), "the three games of men". The games are Wrestling, Horse racing, and Archery. During the Naadam festival, traditional food and drinks are important to serve, “Khuushuur” is the main cuisine along with a special drink made of horse milk (Airag).

モンゴル留学生の紹介

チュテム　バットボルドさん

Message from Chultem Batbold

Full name: Chultem Batbold
Institute: Kanazawa University
Research field: Atmospheric Science
Home town: Gurvansaikhan soum, Dundgobi aimag, Mongolia

I have arrived in Kanazawa,October 2019. I had come here through “Sakura Science Programme” for ten days a year ago from that time. So it means I had experienced preliminary in Japanese culture. But for this time, I am experienced more detailedly in the Japanese education system and daily life. There are so many positive things that I need to learn. I hope and want to learn about that all in the future for 3 years.
And I want to say thank you all Japanese and Mongolians who are helping a lot to me.

お別れの挨拶

ボルドバータル ジャムバルドルジさん

Message from Boldbaatar Jambaldorj

Hello, my friend. I am Boldoo. Time goes so fast!! It has been more than four years since I came to Kanazawa and meet wonderful people.
In Kanazawa, my family collected great memories and made good friendship with Japanese people who love Mongolia. My son was born in Kanazawa during cherry blossoms, now he is 2 years old.

I achieved my purpose. I accepted a Ph.D. degree in late March this year from Kanazawa University.

I have to mention that Ishikawa Mongolia Goodwill Association and members help students And organize many interesting activities for Mongolian and Japanese peoples. I would like to say thank you,everyone, and wish you all the best in your life.

新理事紹介

この度、石川モンゴル親善協会の理事に加えて頂くことになりました、中山雅人と申します。金沢市内の税理士法人の代表を務めております。その他の主な活動としては、バンドによる音楽活動をしています。パートはボーカルとギター、作詞作曲、他のミュージシャンのプロデュースもいたします。

モンゴルには未だ行ったことが有りません。各国の交流が可能になったら、是非モンゴルの雄大な草原、その風を浴びに行きたいと思っております。
皆様、宜しくお願い申し上げます。

中山雅人さん